

1

特集

坂井貴文新学長 就任

 Vol. 23
 May
 2020

令和2年4月に坂井貴文(前 大学院理工学研究科長)が
 埼玉大学第13代学長に就任しました。
 今後6年間の任期を務めます。



ご挨拶

このたび第13代学長に就任し、埼玉大学の将来を担うことになりました。埼玉大学をますます発展させるよう全力を尽くしてまいります。

埼玉大学は、1949年(昭和24年)に新制国立大学として旧制浦和高等学校、埼玉師範学校及び埼玉青年師範学校を統合して創立されました。爾来、70年余りが経過し、現在は教養、経済、教育、理、工の5学部と人文社会科学、教育学、理工学の3研究科から成り、入学定員総数は約2千2百人となっています。また、これまで8万人を超える人材を国内外へ送り出してきており、卒業生は社会の多くの分野で活躍し、新たな知の創出や日本や世界の発展に大きく貢献しています。このことは本学が創立以来様々な取組によって教育研究を深化させてきた結果であり、大いに誇れることであります。

本学は、今後も人類の新たな知の地平の開拓と現代的課題の解決に資する研究力の向上に努めるとともに、確かな研究力を基盤にした高度な教育内容を提供することによって、次代を担う人材の育成に取り組んでまいります。同時に、世界を見据えて、積極的な人的交流を通してグローバルに活躍できる人材の育成を目指します。また、本学が位置する埼玉の地は首都東京と地方を結ぶ結節点にあたり、我々が貢

献できるエリアは埼玉県を中心として首都圏と地方へと広がっています。このことを念頭に置いて、地域や時代のニーズに迅速かつ柔軟に対応するとともに学内外の意見を幅広く取り入れ、地域活性化の中核拠点としての役割を担っていきます。

これらの活動により、大学創立以来連綿と続く本学の教育・研究・社会貢献に対する真摯な取組をさらに充実・活性化し、地域、国内外に確固とした存在感を持つ活気ある埼玉大学を目指して新たな歴史を刻んでまいります。

2020年4月

 埼玉大学長
 坂井 貴文

2 教育 本学学生がJR東日本大宮支社に快適な鉄道の利用環境を実現させるプランを提案

2月17日(月)、本学と東日本旅客鉄道大宮支社(JR東日本大宮支社)が連携し、第3~4タームで開講した「課題解決型インターンシップ」(基盤科目全15回)の最終提案発表会を、JR東日本大宮支社にて行いました。この中で学生たちは、大西精治 JR東日本大宮支社長をはじめとする同支社社員に対し、「鉄道輸送障害時の情報提供」および「駅や車内でのマナー」をテーマとした課題解決策についてのプレゼンテーションを実施。講義を履修した22名(うち1年生が19名)の学生たちが、これまで学部・学年混合型の5グループごとに検討してきた成果を発表しました。各グループの具体的な提案内容は以下の通りです。

- 1班:異常時情報提供サービスの改善に向けて
- 2班:痴漢防止
- 3班:電車内や駅構内におけるマナー向上に関する提案
- 4班:JR東日本アプリによる異常時情報提供
- 5班:エスカレーターを2列に乗ってもらおう



▲学生グループの提案発表の様子

本学とJR東日本大宮支社は、2015年8月より双方が有する人的・物質資源を有効活用することで、埼玉大学周辺および埼玉県を中心としたJR東日本沿線地域の持続的発展と人材育成に寄与する目的で連携協定を締結しており、このプログラムはその取組の1つとして実施しています。

3 教育 令和2年度入学式が中止 — 第1・2タームは遠隔授業が中心に

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月3日(金)に予定していた入学式、および6日(月)に予定していた大学院入学式は中止となりました。また、4月13日(月)から予定していた新年度の授業についても、授業開始日が4月27日(月)に延期となり、実験・実技・実習を除いた多くの授業がインターネットを活用した遠隔授業に変更になっています。(4月22日現在)

4 教育 令和元年度第2回学生表彰を举行 — 優れた学術研究・課外活動の成果を称えて —

3月11日(水)、令和元年度第2回学生表彰式を開催しました。学生表彰とは、学術研究等の成果が優れている学生、課外活動の成果が特に顕著である学生、社会活動において優れた評価を受けた学生、その他表彰に値すると認められた学生について、その成果を称え、表彰を行う制度です。

今回は個人表彰15名および団体表彰2団体に対して表彰状が授与され、学生後援会より記念品が贈呈されました。受賞者名は次の通りです。

- 個人表彰 理工学研究科 14名:中村亮裕/原 克弥/梅本愛美/佐藤仁美/高田侑希/多田浩明/窪田雅大/伊藤敦也/山地真由/佐藤太一/大和田凌太/増澤健太/保前俊稀/五十嵐真吾
- 個人表彰 理学部 1名:西垣南歩
- 団体表彰 2団体:B棟301/アクアパッツァ



▲山口 前学長(前列中央)と表彰された学生たち

5 国際 「My culture to be passed on to the future generation — 日本人学生と留学生でお正月文化をディスカッション!」開講

教養部専門科目「Introduction to Japanese Culture」(コーディネーター:埼玉大学フェロー 加藤 基 氏)は、協定校への留学を目指している学生と協定校からの留学生を主な対象とした国際共修授業。

1月10日(木)の講義では「My culture to be passed on to the future generation—日本人学生と留学生でお正月文化をディスカッション!」をテーマに、日本人学生と留学生混合のグループごとにプレゼンテーションやディスカッションを行いました。

講義では、まず留学生と日本人学生混合のグループ内で、それぞれの今年の正月の過ごし方を発表。そして「年越し蕎麦は夕食に食べるのか、それとも夕食とは別に年越し直前に食べるのか?」「お餅の形は四角か丸か?」など、発表の中で生じた疑問をテーマにしたディスカッションを行いました。

ディスカッション後には、各留学生が出身国の正月の風習を紹介。台湾の餃子や火鍋、韓国のトックを食べる文化など、紹介された内容に学生たちも興味津々で、自国の文化と似ているところを見つけて共感したり、独特の風習に驚いたり、異文化交流を楽しみました。



◀講義に参加した学生たち。ディスカッション・発表を通じて学生同士の交流が深まりました

6 学生 令和元年度の「梶田隆章賞」を授与

若手研究者の育成推進を目的として、学業において優秀な成績を収め、高い研究者への志を有する大学院進学予定の卒業生1名を毎年表彰する「梶田隆章賞」の表彰式を、3月25日(水)に開催。例年、この賞の表彰は、大学卒業式内で行いますが、新型コロナウイルスの影響で卒業式が中止となったため、学長室にて実施することになりました。

今回受賞者となった後藤瞭太さんは、理学部物理学科で宇宙物理学の研究に取り組んできました。卒業後は、この賞が作られるきっかけとなった梶田先生が所長を務める「東京大学宇宙線研究所」で研究を続ける予定。今後一層の活躍が期待されます。



▲記念の盾を手に、山口前学長と握手を交わす後藤さん

後藤さんのコメント

「梶田先生がノーベル賞を受賞されたのは、ちょうど僕が受験生だった頃のことです。そもそも埼玉大学に進学したのは、梶田先生の母校だったことも理由の1つでした。そんな先生の名を冠した賞をいただいたことを、とても嬉しく思っています」

8 研究 理工学研究科 稲田 助教の研究が、パワーアカデミー研究助成「特別推進研究」に採択

2月25日(火)、本学において2019年度パワーアカデミー研究助成「特別推進研究」の採択式が行われました。

パワーアカデミー研究助成とは、電気工学分野の一層の発展に寄与することを目的として設立された組織である「パワーアカデミー」が、「産学共同研究の促進」を目的に実施する助成制度。毎年、助成の対象となる研究として、1件の「特別推進研究」と複数件の「萌芽研究」が採択されます。

そして、この度「特別推進研究」に、本学大学院理工学研究科 稲田優貴 助教が研究代表者を務める「アーク誘発乱流構造に着目したアーク消滅メカニズムの解明 一次世代ガス遮断器の開発に向けた新アプローチ」が採択され、前述の通り、採択式が行われました。なお、本研究は、金沢大学 田中康規 教授、東京大学 熊田亜紀子 教授、筑波大学 藤野貞康 准教授、大阪大学 茂田正哉 准教授と共同で進められています。



▲採択式参加者。前列左から：前山 教授、坂井 理工学研究科長(当時)、稲田 助教、東京大学 熊田 教授、黒川 工学部長(当時)、後列左から：浅香 事務長、山納 准教授、内田 教授、東京電力ホールディングス株式会社 太田 課長、パワーアカデミー 杉村 部長

7 学生 埼玉大学剣道部が、第40回 鳳翔剣大会を開催

毎年、本学剣道部が開催している鳳翔剣大会が1月12日(日)に行われ、会場の総合体育館には、小学生から高校生まで約200名の学生剣士が集まりました。

今回で40回目の開催となる本大会は、本学剣道部の地域交流行事の1つであり、地域の学生剣士を招待し、試合を行うもの。剣士たちは、早朝に行われた寒稽古から参加。ピンと張りつめた空気の中、本番に備えて、剣道部員たちと一緒に汗を流しました。

大会で行われる試合のうち、小学校の部は、時間制限本数勝負で行われます。これは子供たちが練習の成果を発揮できるように配慮した鳳翔剣大会ならではのルールで、通常の3本勝負とは異なり、試合時間内ならば何本取ってもよいというものです。1回の試合の中で、いろいろな技を試せるだけでなく、たとえ本数差があっても、最後まで諦めず、戦い抜く精神を身に付けられるのです。

また本学剣道部員にとっても、地域の道場や小学校、中学校、高等学校の剣道部の顧問の先生方に監査してもらうことで、審査技術の向上を図れる貴重な機会になりました。



▲小学生低学年の部で入賞した子供たち

9 地域 テニスコート改修への寄附をいただいた株式会社高脇基礎工事に感謝状を贈呈

令和元年12月2日(火)、本学のテニスコート改修に多大な寄附をいただいた株式会社高脇基礎工事の門脇佳典社長に感謝状を贈呈しました。

令和元年11月末に完了したこの改修は、平成28年度から段階的に進められてきたもの。本学が「埼玉大学運動施設維持管理開放事業」の業務を委託するSARI有限責任事業組合による事業、およびSARIを構成している株式会社高脇基礎工事の寄附により、実現することができました。

なお、テニスコートを含む本学の運動施設は、地域住民の方にも開放されています。ご利用されたい方はSARIのWEBサイト(<http://www.sari.co.jp/>)からお申し込みください。



▲門脇社長と山口 前学長



▲改修が完了したテニスコート



▲全12面のコートが改修されました

10 教育 卒業生1532名、修了生607名が 埼大を巣立つ

新型コロナウイルスの感染拡大は、学生たちの晴れの日にも影響を与えました。

本学でも予定していた大学院修了式、卒業式は中止することに決定。卒業生への学位記授与は、郵送や学内での学部・学科・研究室単位での受け渡しに変更となりました。

大学では、卒業式の雰囲気でも記念撮影だけでもして貰おうと、今回のために準備した看板を大学会館の入り口に設置。キャンパスを訪れた修了生、卒業生の中には、本来式典で着る予定だった袴姿の学生もあり、友人らと思ひ思いに記念撮影を行っていました。

例年のように、学部生全員が集まることは叶いませんでしたが、キャンパスでは、卒業生たちが満開の桜の下、久しぶりに会う友人同士で、お互いの新たな門出を祝う様子が見られました。



▲大学会館前で記念撮影



▲桜の下で新たな門出を祝う卒業生

埼玉大学基金室より 埼玉大学古本募金 きしゃぼんのご案内

いつも埼玉大学基金へのご理解とあたたかいご支援をいただき、ありがとうございます。

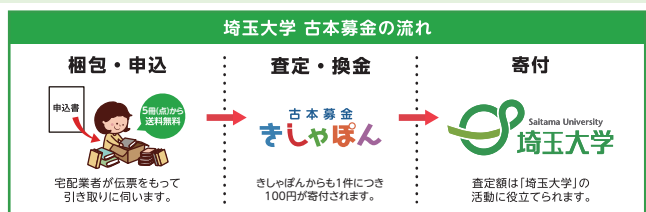
今回は、埼玉大学古本募金のご紹介をさせていただきます。

埼玉大学古本募金は、読み終えた書籍やDVD等を「古本募金 きしゃぼん」(運営：嵯峨野株式会社)にお送りいただくことで、その査定額を埼玉大学基金にご寄附いただく制度です。

5冊(5点)以上であれば送料は無料です。

詳細は下記ホームページをご覧くださいませようお願いいたします。

今後とも埼玉大学基金へのご理解とご支援をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。



(WEB受付) 24時間・365日



埼玉大学 古本募金



www.kishapon.com/saitama-u/



(電話受付) 9時～18時



0120-29-7000

「埼玉大学への寄付」
とお伝えください

◆埼玉大学基金のご報告

令和2年3月末の状況

489,745,545円

うち古本募金「きしゃぼん」によるご寄附 814,762円

埼玉大学基金室 (広報渉外室内) ☎048(858)9330 ✉s-kikin@gr.saitama-u.ac.jp 🌐http://www.saitama-u.ac.jp/funds/
古本募金「きしゃぼん」についてはホームページの「お申し込み方法」(http://www.saitama-u.ac.jp/funds/pay/)の「3.古本募金」からもご覧いただけます。

